

シンポジウム 1

「消化管における粘膜傷害・機能障害とキーモレキュール」

司会 三輪 洋人（兵庫医科大学消化器内科学）

穂苅 量太（防衛医科大学校内科学（消化器内科））

消化管機能性疾患はかつては正常な粘膜を背景とする病態と考えられていたが、近年の研究により微小な粘膜障害が存在し、様々な分子が病態に関与していることがわかってきた。したがって器質性疾患と機能性疾患を分離することは困難であり、粘膜障害を両者の共通項としてバランスの上にどちらかの症候が特徴つけられているといえる。本シンポジウムでは、消化管粘膜傷害・機能障害の病態や臨床において、様々な知見を深く議論する場とするべく、研究開発段階の成果も含めて、上部、下部を問わず幅広い演題を歓迎したい。